矢田野校下のまいぶんマニュアル

ぜひ授業で紹介してほしいポイント！

★☆矢田野校下ってこんなところ！☆★

地形の説明　矢田野校下の遺跡

地形／矢田野校下のおもな地形は、加賀三湖にかこまれた**台地**と、その台地の背後に広がる小高い**丘陵**です。この丘陵は古墳時代後期から平安時代にかけて、**製陶**（せいとう）（やきものづくり）や**製鉄**（せいてつ）（鉄づくり）が盛んだった大工業地帯です。

林タカヤマ窯跡群や林製鉄遺跡群は、小松ドームがある場所で見つかったよ！

林タカヤマ窯跡群

年表に登場する遺跡１／南加賀製陶遺跡群（みなみかがせいとう）（矢田野校下ほか那谷・粟津校下）

おもな時代は**古墳時代～平安時代**。

教科書の小単元は**「縄文のむらから古墳のくにへ」～「貴族のくらし」**。

ポイント①＝古墳時代になると、**渡来人**（とらいじん）がもたらした**のぼり窯**（がま）で焼く新しい土器（**須恵器**（すえき））がつくられるようになりました。

ポイント②＝小松市南東部の丘陵で**２００基以上**の窯が築かれました。中でも矢田野校下の二ツ梨町や林町では、**古墳時代～平安時代の約５００年間**の長い期間にわたって、須恵器がつくり続けられます。

※製陶については普及冊子「こまつ原始・古代のものづくり」をご覧ください。▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶

WEB 版ものづくり冊子

窯で焼かれたもの（うつわ以外に埴輪や瓦も焼かれました）

年表に登場する遺跡２／南加賀製鉄遺跡群（みなみかがせいてつ）（矢田野校下ほか蓮代寺・木場・粟津・那谷校下）

おもな時代は**飛鳥時代～平安時代**。教科書の小単元は**「天皇中心の国づくり」～「貴族のくらし」**。

ポイント＝弥生時代に大陸から伝わった鉄は全国へと広まり、いよいよ小松でも飛鳥時代頃から本格的な**製鉄**（せいてつ）が始まりました。矢田野校下では、**林製鉄遺跡群**（奈良・平安時代）で、砂鉄から高純度の鉄を取り出す**製鉄炉**（せいてつろ）や燃料用の**炭窯**（すみがま）が見つかっています。

林製鉄遺跡群の製鉄炉